

資料2 標本の大きさ n の推定表

δ = ε / 母集団の母比率 平均 大きさ N P=0.05	変動係数 cv = σ / 平均														
	0.05	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00	1.25	1.50		
0.05	500	377	4	15	55	109	165	217	263	301	332	357	377	414	437
	1,000	606	4	15	58	122	198	278	356	430	496	555	606	706	776
	2,000	869	4	15	60	129	219	322	434	547	659	767	869	1,091	1,267
	3,000	1,016	4	15	60	132	227	341	467	602	741	880	1,016	1,334	1,607
	4,000	1,110	4	15	61	134	232	351	486	634	790	949	1,110	1,501	1,855
	5,000	1,176	4	15	61	135	234	357	498	655	822	997	1,176	1,622	2,044
	10,000	1,332	4	15	61	136	240	370	524	700	895	1,107	1,332	1,936	2,569
	15,000	1,394	4	15	61	137	242	375	534	717	923	1,149	1,394	2,070	2,810
	50,000	1,491	4	15	61	138	245	381	547	742	964	1,214	1,491	2,291	3,234
	100,000	1,513	4	15	61	138	245	383	550	747	974	1,229	1,513	2,345	3,342
	∞	1,537	4	15	61	138	246	384	553	753	983	1,245	1,537	2,401	3,457
0.10	500	217	1	4	15	32	55	81	109	137	165	192	217	273	317
	1,000	278	1	4	15	33	58	88	122	159	198	238	278	375	464
	2,000	322	1	4	15	34	60	92	129	172	219	269	322	462	604
	3,000	341	1	4	15	34	60	93	132	177	227	282	341	500	671
	4,000	351	1	4	15	34	61	94	134	180	232	289	351	522	711
	5,000	357	1	4	15	34	61	94	135	181	234	293	357	536	737
	10,000	370	1	4	15	34	61	95	136	185	240	302	370	566	796
	15,000	375	1	4	15	34	61	95	137	186	242	305	375	577	817
	50,000	381	1	4	15	35	61	96	138	188	245	309	381	593	850
	100,000	383	1	4	15	35	61	96	138	188	245	310	383	597	857
	∞	384	1	4	15	35	61	96	138	188	246	311	384	600	864

まなから有効である。

6-11 標本の大きさの決定
公式 平均の推定のばあい、

$$n = \frac{\left(\frac{\epsilon}{1.96}\right)^2 \frac{N}{N-1}}{\sigma^2} + 1 \quad \text{または} \quad n = \left(\frac{1.96}{\epsilon}\right)^2 \delta^2 \quad (37)$$

比率の推定のばあい、

$$n = \frac{\left(\frac{\epsilon}{1.96}\right)^2 \frac{N}{N-1}}{P(1-P)} + 1 \quad \text{または} \quad n = \left(\frac{1.96}{\epsilon}\right)^2 P(1-P) \quad (38)$$

例題 1 ある集団の 1 ヶ月の平均書籍代を推定したい。過去における調査によれば、その平均は約 800 円、標準偏差は約 820 円である。相対精度 $\delta = \frac{\epsilon}{X} = 0.05$ で推定するには、どの位の標本の大きさを必要とするか。ただし、母集団の大きさを 10,000 とする。

解 $\delta = \frac{\epsilon}{X} = 0.05$, $X = 800$ であるから、絶対精度に直せば $\epsilon = 800 \times 0.05 = 40$, これを (37) 式に代入して、

$$n = \frac{10,000}{\left(\frac{40}{1.96}\right)^2 \frac{10,000-1}{820 \times 820}} + 1 = 1,390$$

例題 2 ある集団において生活意識調査を実施したい。絶対誤差を 5% の範囲に止めるためには、どの位の標本の大きさを必要とするか。ただし、母集団の大きさを 10,000 とする。

解 このような調査では、比率の推定が一般に主たる目的となる。また、このような調査には多くの (推定) 項目が含まれ、それらに関する過去のデータも存在しないのがふつうである。しかし、(38) 式が示すように、他の条件が一定とすれば、母比率 $P = 0.5$ のときに標本誤差は最大となるので、その場合を想定して $\epsilon = 0.05$, $P = 0.5$ を (38) 式に代入すれば、

$$n = \frac{10,000}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{10,000-1}{0.5 \times 0.5}} + 1 = 370$$

【注意】(1) 上の公式 (37), (38) はもちろん、信頼係数 95% としたばあいの絶対精度 (絶対誤差) を ϵ としている。

(2) 相対精度 (相対誤差) は $\delta \equiv \epsilon/X$, または $\delta \equiv \epsilon/P$ で定義されるが、

一般に相対精度を 0.1 ないし 0.05 におさえれば標本設計するのがふつうである。

(3) 集落抽出や階次抽出をするばあいは、単純無作為抽出するときより標本誤差が大きくなるから、(37), (38) 式から求められる n をさらに 2 ~ 3 倍すべきである。

(4) ここに述べたのは、母数推定の立場からの標本の大きさの決定であるが、多くの社会調査においては、むしろ相関・関連の検定の立場から同時に考慮されねばならない。後者のばあいは、問題はやや複雑であるが、母集団の大きさは無関係に、標本の大きさが大きくなければならないというよりはむしろ、われわれの経験からいって 200 は標本の大きさの下限であらう。

安田三郎、原 純輔：社会調査ハンドブック (第 3 版), 有斐閣, 1985.

保健情報処理研修会

アンケートの取り方 2・3

—パソコンによる入力と集計の効率化—

平成12年1月19日

筑紫保健所

森松、笠

目 次

1	はじめに.....	217
2	テーブルの設計.....	218
	(1) アンケートのデータを格納するテーブルを作成する。.....	218
	(2) 各テーブルの関連づけ（リレーションシップを定義する）.....	221
	(3) テーブル作成の手順.....	225
	(4) リレーションシップの定義をする。.....	227
3	入力用フォームを作成する.....	230
	(1) フォームのデザインを決定する.....	230
	(2) 入力用のクエリーを作成する。.....	234
	(3) フォームウィザードでフォームを作成する。.....	237
	(4) フォームのレイアウトを変更する。.....	240
	(5) サブフォームを作成する。.....	249
4	アンケートデータを集計する。.....	253
	(1) 単純なグループ集計をする。.....	253
	(2) クロス集計クエリーを作成する。.....	257
5	エクセル97の機能紹介.....	262
	(1) フォーム機能.....	262
	(2) フィルタ機能.....	263

1 はじめに

パソコンでなんらかの処理をしたいときに事前準備をきちんとしていますか？

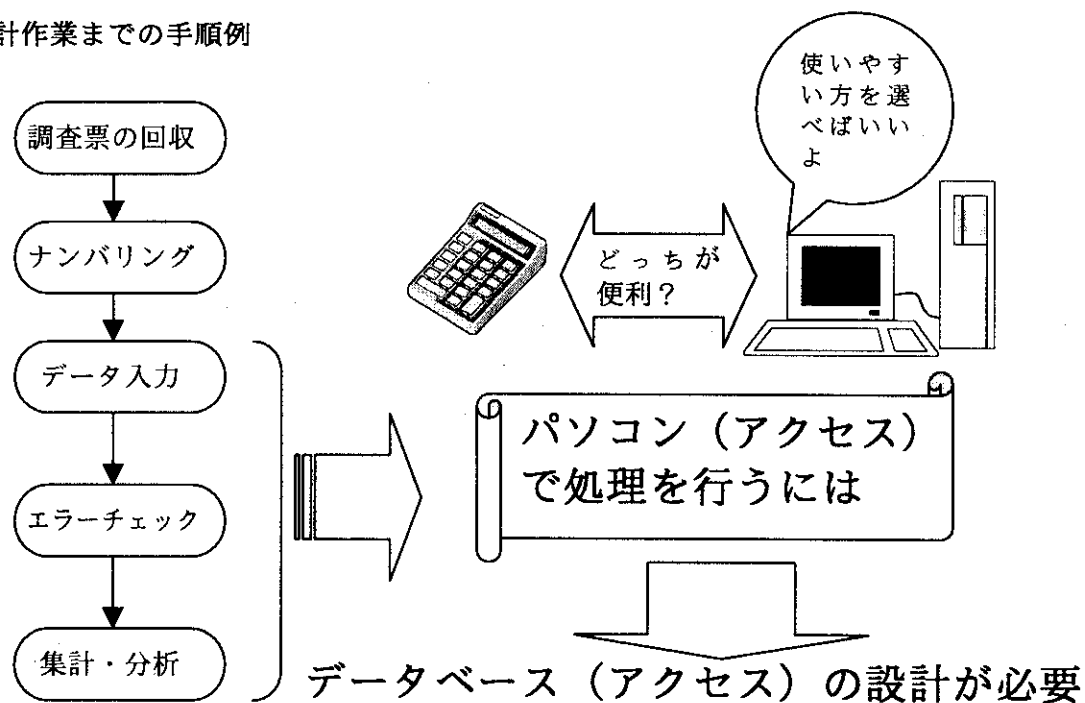
家を建てるときに「設計図」を書かずにいきなり工事を始めることはないのと同様に、データベースやオーダーメイドのソフトを作るときにも「設計図=仕様書」をつくることから始まります。この「設計(仕様)」に時間をかけてきちんつくるかどうかがその後の「ソフト」のできを左右します。自分でソフトを作るときもそうですが、外注する際にもきちんと「設計」を行わないと「高いうえに使えない」になってしまいます。

「設計」というとすごく難しいように思いがちですが、業務の流れ(手順)の把握やルール化を行うことです。(例えば、コード表をつくるなど)

この「設計=仕様」をきちんつくることが実は一番大変で重要なのです。

今回アンケート集計の実習を通して「アクセス97」の操作と共に「設計して作る」ことを考えていきましょう。

集計作業までの手順例



- ①どんなデータを(テーブルの設計)
- ②どう入力して(フォームの設計)
- ③どう集計分析するか(クエリー・レポートの設計)

2 テーブルの設計

(1) アンケートのデータを格納するテーブルを作成する。

アクセスでの最初の作業は、テーブル（データを格納する入れ物）を作ることから始まります。

★どんなテーブル必要か？

★各テーブルには、どんなデータを格納するのか？（フィールド定義をする）

★各テーブルに関連づけをするのか？（リレーションシップを定義する）

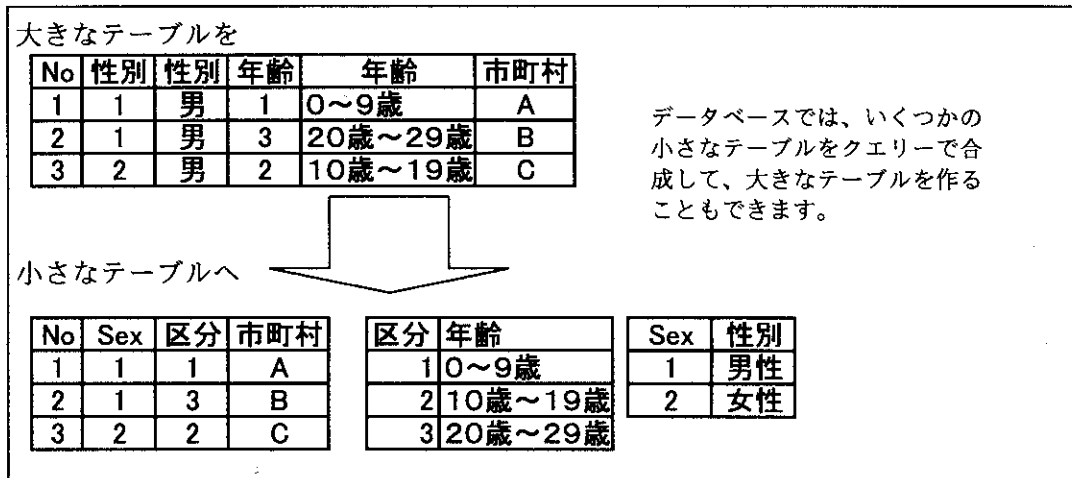
以上の3つことを考えながらテーブルを作成していきます。

1) どんなテーブルが必要か？

このアンケート集計するにはどんなテーブルが必要でしょうか？

設問をすべてまとめたテーブル一つを作成すればいいのでしょうか？

テーブルを作成する際のポイントとしては、「複雑で巨大なテーブル(表)を作らない」こと、つまり「単純化された小さなテーブル(表)の一群に分散、整理する」ことが大切です。



では、実際にこの実習用のアンケート票を考えてみましょう。

回答方法から単数回答と複数回答に分類できます。また、単数回答はフェイスシート部分と設問部分の二種類に細分できます。

つまり、単数回答用と複数回答用を別々のテーブルを作ります。設問数が多い場合は、フェイスシートと設問を分けてテーブルを作成することも可能ですが、今回は設問数が少ないので両者を一緒のテーブルに作成します。

では、この2つのテーブルだけで十分でしょうか？

フェイスシート部分は性別、年齢や市町村などは数字の1や2などのコード化をしています。もちろん、コードのまま集計や分析をするのであれば上記の2つのテーブルで十分です。しかし、コード表が無ければコードが何を示すのか分からないので、コード表を必ず作成します。アクセスでもコード表をテーブルとして作成することは必要です。

以上から今回のアンケート用テーブルは以下の5つを作ります。(右側はテーブル名)

作成するテーブル (表)	テーブル名
1 単数回答用テーブル	T_単数回答
2 複数回答用テーブル	T_複数回答
3 性別コード用テーブル	T_性別 Code
4 年齢コード用テーブル	T_年齢 Code
5 市町村コード用テーブル	T_市町村 Code

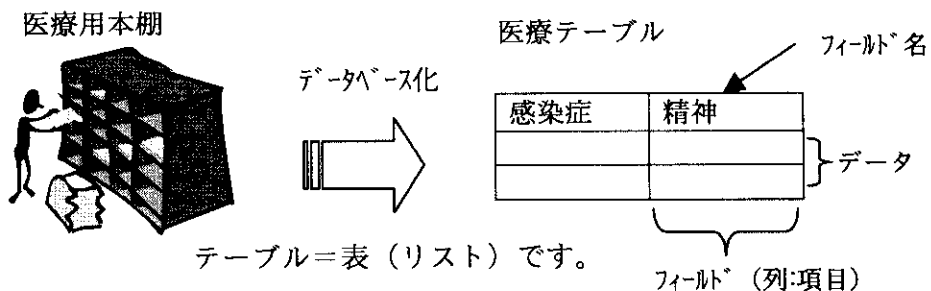
} コード表

また、必要に応じて回答コードテーブルを作ることもあります。

以上で、テーブルの外側はできました。この入れ物であるテーブルの中には何を入れるのかを次に決定しなければなりません。(フィールド定義)

※一ロメモ テーブル名を[T_]から始める理由
これは、テーブル名に[T_]をつけることで、名前からすぐテーブルであると分かるようにするためです。クエリーやフォームなどを作った際にもそれぞれ名前を作る際にルール化しておくとは便利です。フィールド名には空白の文字をいれるのは、綴り間違いなどの元になるので、さげましょう。

※一ロメモ テーブルとは？
ここにたくさんの本があると思って下さい。これらを収納するために本棚を用意します。データベースでは、本を入れるための本棚が「テーブル」(入れ物)であり、書籍が「データ」です。また、本棚の各棚がデータベースでは「フィールド」にあたります。本の収納には、分野別や出版社別など整理整頓の方法はいろいろありますが、データベースではこの整理整頓が、テーブル名を付ける、フィールドを定義するといった作業になります。整理整頓の上手なデータベースの作成を心がけましょう。



2) 各テーブルには、どんなデータを格納するのか？（フィールド定義をする）

ここでは、具体的に一覧表（テーブル）をつくる作業です。

最初にテーブルの中に、どのフィールド（項目 列）が必要か考えます。

性別コード表を例にとると、一番上の行に、「コード」、「名称」などの項目名を記入し、その下の行からデータを書き込みますが、当然、名称の列には、性別の名称のみを書くという暗黙の了解があります。

上記の作業はアクセスでは、①フィールド名、②データ型、③データサイズを設定する「フィールド定義」と呼ばれる作業にあたります。

例) 性別コード表

コード	名称
1	男性

①項目名=フィールド名：名称

②性別を記入する。
(データ型テキスト)
(サイズ 4)

・フィールドを定義する際の約束事

①フィールド名

- ・空白のフィールド名は定義できません。
- ・テーブルの中に同じ名前のフィールドを複数つくれません。

その他注意事項

- ・フィールド名を変更すると、そのフィールドを参照していたクエリーやフォームに影響を与えます。
- ・フィールド名には空白の文字列を含まないこと。
- ・分かりやすい名称をつけること。

②データ型

フィールド内は、「文字（テキスト）」、「数値」、「日付」等の同じタイプのデータでなければなりません。

先ほどの、性別コード表の「コード」には、数字で表現するとルール化するならば、データ型は「数値」になります。このコードにいきなり、「X」の文字を入力するのはルール違反です。データ型を「数値」に設定しておく、と、文字などのデータの入力はできません。

③データサイズ

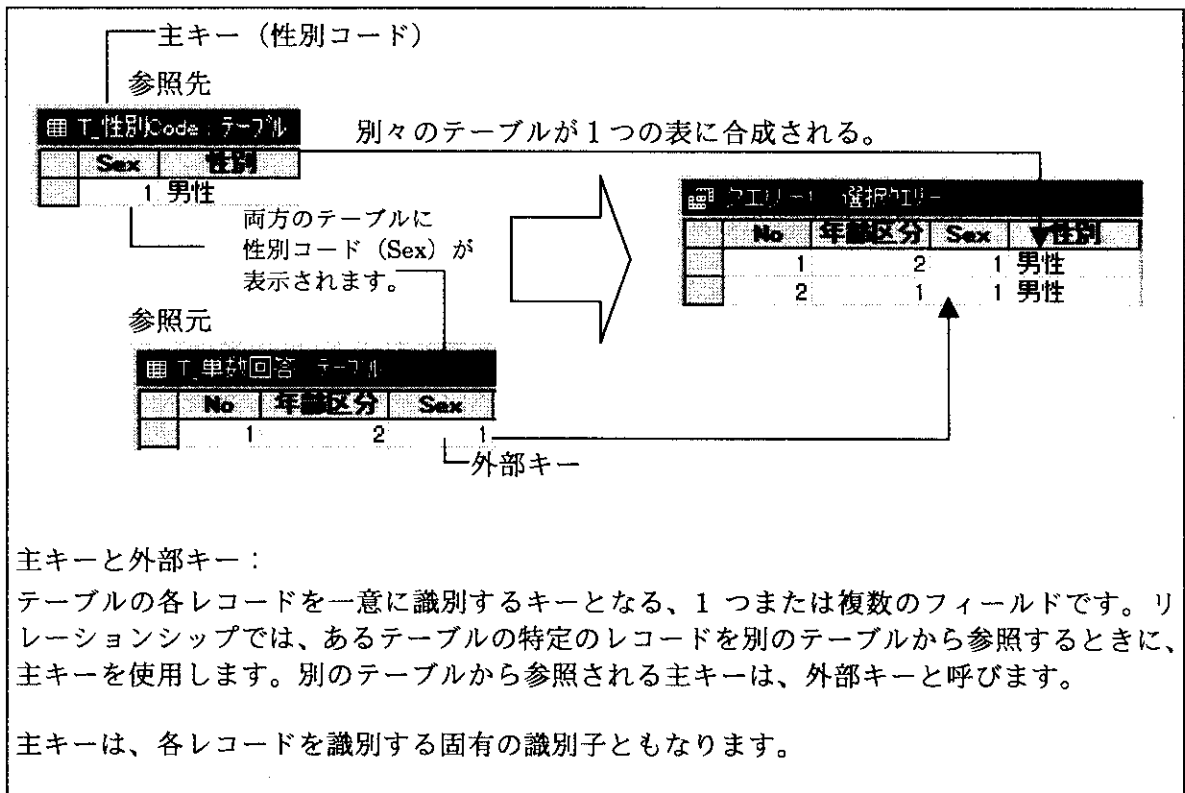
「テキスト型（文字）」と「数値型」は、データの長さを指定します。

このデータ型とサイズの設定が同じものでなければ、クエリーでのテーブルの関連づけが行えなえません。（後の入力クエリーのところで説明します）

「データ型」の詳細は、第5回目の「Microsoft ACCESS の使い方（テーブルとクエリー）」の「データ型について（5ページ）」を参考して下さい。

(2) 各テーブルの関連づけ (リレーションシップを定義する)

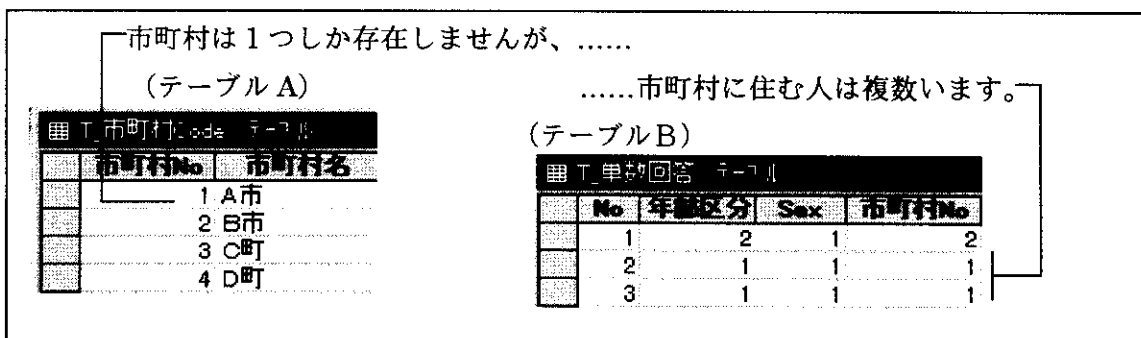
データベースに複数のテーブルを作成した場合、テーブル間にリレーションシップ (関連づけ) を定義するとデータをまとめて処理することができます。(アクセスで処理をするメリット)。リレーションシップは、2つのテーブル間の共通フィールド (列) のデータを照合することにより機能します。



1) リレーションシップの種類

☆一対多リレーションシップ

一対多リレーションシップは、最も頻繁に使用されます。テーブルAの1つのレコードは、テーブルBの多数のレコードに対応し、テーブルBの1つのレコードはテーブルAの1つのレコードに対応します。



☆一対一リレーションシップ

一対一リレーションシップでは、テーブルAの各レコードは、テーブルBの1つのレコードにのみ対応し、テーブルBの各レコードはテーブルAの1つのレコードにのみ対応します。このように関連づけられたデータは通常1つのテーブルに保存されるため、一対一リレーションシップはあまり一般的ではありません。一対一リレーションシップは多数のフィールドがあるテーブルを分割したりするときなどに使用されます。

例えば、設問数が100以上あるアンケート調査票の場合、設問グループ毎にテーブルを作成した方が効率的です。

設問数が多いので、別々のテーブルを用意します。
回答者は、一人なので回答者を表す「No」は、それぞれ1つのみです。

No	年齢区分	Sex	市町村No	年数	問1-1	問1-2
1	2	1	2	5	1	1
2	1	1	1	5	1	1

No	問10-1	問10-2	問10-3	問11	問12
1	2	1	2	2	2
2	1	2	2	2	3
3	1	1	2	2	2

2) 参照整合性

参照整合性は、レコードの入力や削除を行っても、テーブル間のリレーションシップが維持されるようにするための規則です。次の条件を満たす場合に、参照整合性を設定することができます。

- 主テーブルから一致するフィールドが、主キーであるか、または固有インデックスが設定されていること。
- 関連付けるフィールドが同じデータ型であること。ただし、2つの例外があり、オートナンバー型フィールドと、"FieldSize/フィールドサイズ" プロパティに [長整数型] が設定されている数値型フィールドとを関連付けること、および "FieldSize/フィールドサイズ" プロパティに [レプリケーション ID 型] が設定されている数値型フィールドと、"FieldSize/フィールドサイズ" プロパティに [レプリケーション ID 型] が設定されているオートナンバー型フィールドとを関連付けることは可能です。

参照整合性を設定すると、次の規則に従う必要があります。

- 主テーブルの主キーに存在しない関連テーブルの外部キー フィールドに、値を入力することはできません。ただし、外部キーに **Null** 値を入力し、そのレコードが関連付けられないように指定することができます。たとえば、存在しない市町村コードをアンケート回答データに割り当てることはできませんが、[市町村コード] フィールドに **Null** 値を入力することにより、どの市町村も割り当てられていない回答データを作成することはできます。
- リレーション テーブルに一致したレコードが保存されている場合、主テーブルからレコードを削除することはできません。たとえば、[単数回答用] テーブルに市町村コードとして入力されている市町村のレコードを [市町村] テーブルで削除することはできません。
- レコードに関連レコードがある場合、主テーブルの主キー フィールドの値は変更できません。たとえば、[単数回答用] テーブルに該当市町村として入力されている市町村コード を [市町村] テーブルで変更することはできません。

これらの規則をリレーションシップに設定する場合、リレーションシップを作成するときに [参照整合性] チェック ボックスをオンにします。参照整合性が設定されている場合に、規則に合わない操作をリレーション テーブルで行うと、メッセージが表示され、操作は実行されません。

リレーションシップ

テーブル/クエリ(Q)	リレーションテーブル/クエリ(R)
T.市町村Code	T.アンケート単数回答
市町村No	市町村No

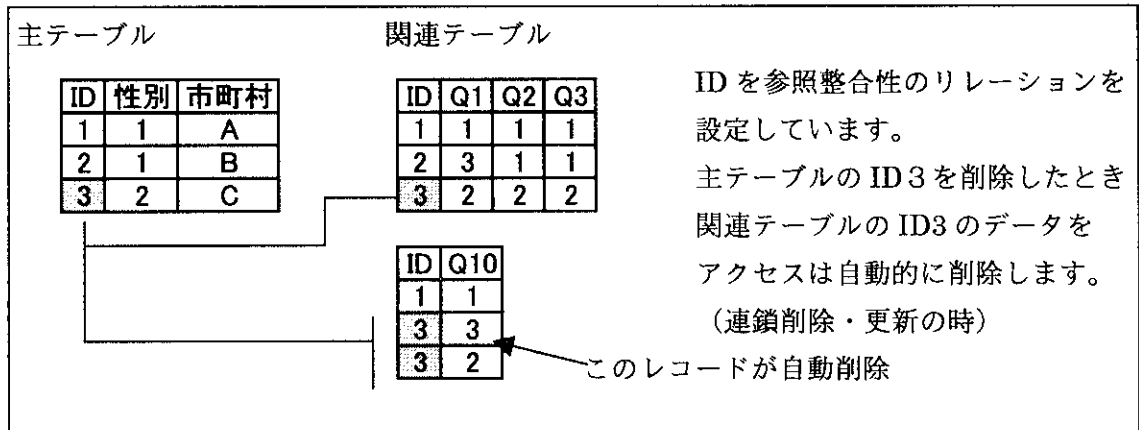
参照整合性(C)
 フィールドの連鎖更新(U)
 レコードの連鎖削除(D)

リレーションシップの種類: 一対多

OK
キャンセル
結合の種類(L)
新規作成(N)

関連レコードの削除と変更に対する規則は無効にすることができ、[フィールドの連鎖更新] および [レコードの連鎖削除] チェック ボックスをオンにしておくと、参照整合性を維持することができます。[フィールドの連鎖更新] チェック ボックスをオンにすると、主テーブルの主キー フィールドの値を変更したとき、関連するテーブルの対応するレコードの値がある場合は、自動的に更新されます。[レコードの連鎖削除] チェック ボックスをオンにすると、主テーブルの主キー フィールドの値を削除したとき、関連するテーブルの対応す

るレコードの値がある場合は、自動的に削除されます。



一口メモ リレーションシップをとる時のフィールド名

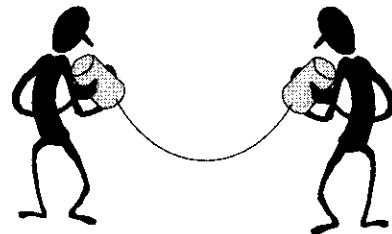
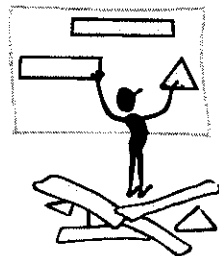
リレーションシップを設定するときフィールドの定義（データ型やサイズ）は同じものでなければなりません、同じフィールド名にする必要はありません。

フィールドに格納されるデータが同じであればOKです。

上の例では主テーブルと関連テーブルの「ID」は、アンケート票の番号です。

関連テーブル側を「ID2」や「No」とフィールドの名称を設定してもフィールドにアンケート票の番号を登録すると定義していれば、リレーションシップの設定はできます。

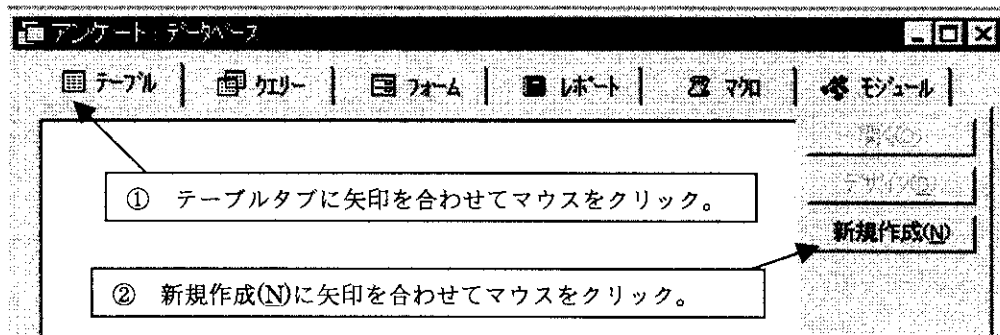
ただし、リレーションシップ設定後にテーブル名やフィールド名を変更するとアクセスは自動的な更新はできませんので、再度リレーションシップの定義を設定する必要があります。



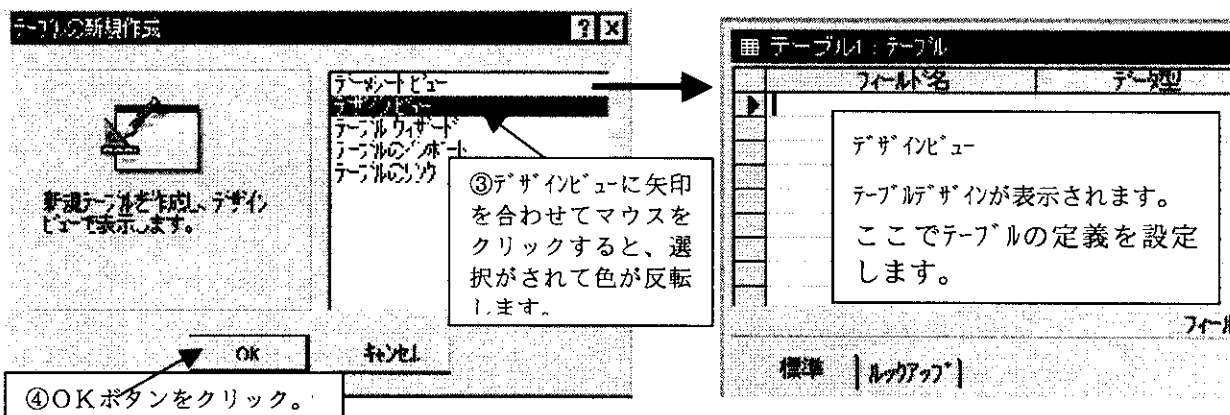
(3) テーブル作成の手順

単数回答のテーブルを作成する場合を例にとって説明します。

1) データベースウィンドのテーブルタブを選択し、新規作成のボタンを押します。

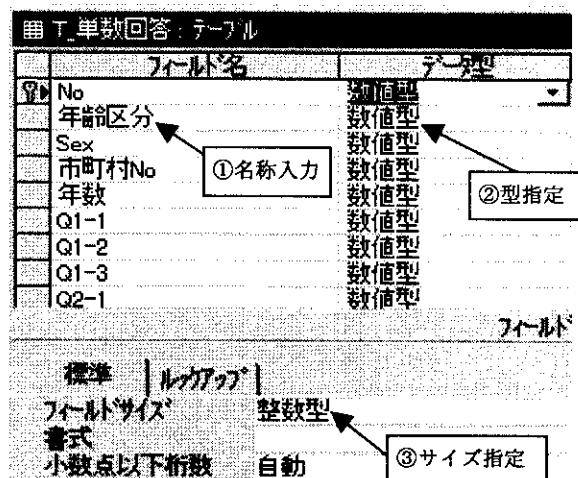


2) 「テーブルの新規作成」が表示されるので、デザインビューを選択し、OK ボタンを押します。



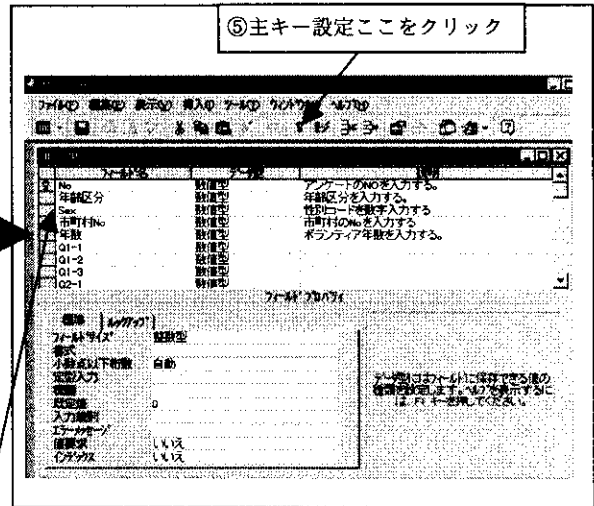
3) テーブルの定義を設定する (フィールドを設定する)

- ①フィールド名 (列) に名称を付けます。
- ②データ型を指定します。
- ③フィールドサイズを指定します。
- ④主キーを No に設定します。



次の表に従って、フィールド定義をして下さい。

フィールド名	データ型	フィールドサイズ
No	数値型	整数型
年齢区分	数値型	整数型
Sex	数値型	整数型
市町村 No	数値型	整数型
年数	数値型	整数型
Q1-1	数値型	整数型
Q1-2	数値型	整数型
Q1-3	数値型	整数型
Q2-1	数値型	整数型
Q3	数値型	整数型

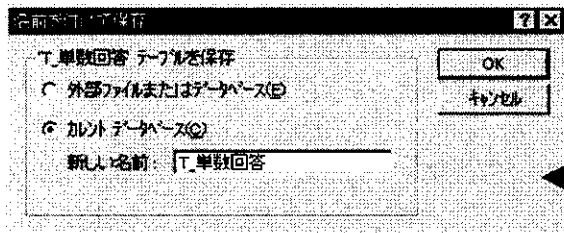
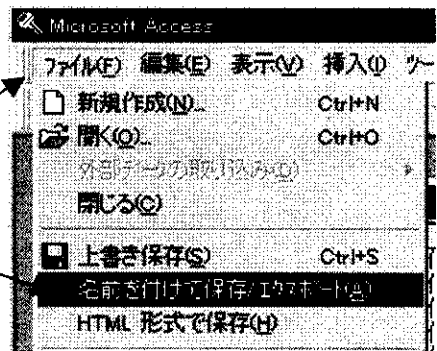


④No を選択した後、鍵マークをクリック ⑤へ

4) テーブルを保存する。

①メニューの「ファイル (F)」をクリックする。

②名前をつけて保存/エクスポートを選択する。



③テーブル名「T_単数回答」と入力し「OK」ボタンを押す。

◎テーブルが完成しました。＼(^▽^)/

No	年齢区分	Sex	市町村No	年数	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q2-1	Q3
1	2	1	2	5	1	1	1	2	1
2	1	1	1	5	1	1	1	1	2
3	1	1	1	1	2	1	1	2	1
4	1	2	2	5	1	1	2	1	0

性別コードを数字入力する

※説明欄にコメントを記入すると、テーブルを開いたときに左下に表示されます。

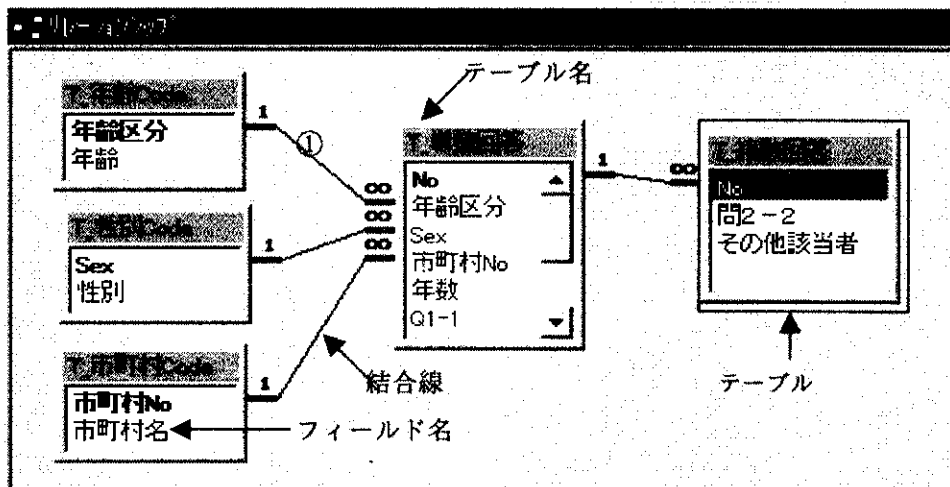
練習1 市町村コード用のテーブルを以下の条件で作成して下さい。

テーブル名 「T_市町村 Code」 主キーは自分で割り当てて下さい。

フィールド名「市町村 No」 データ型 ?
「市町村名」 データ型 ? サイズ 10

(4) リレーションシップの定義をする。

1) リレーションシップの設定画面



上の図は、今回の実習用アンケートのリレーションシップ設定画面です。

☆結合線 関連づけをするテーブルのフィールドを結合を表します。

参照整合性が設定されているときは、リレーションシップの種類が表示されます。

これは、結合線の「1」（一側のテーブル：主キー）と無限大を表す「∞」（多側側のテーブル：外部キー）です。

結合線のある数だけリレーションが定義されています。

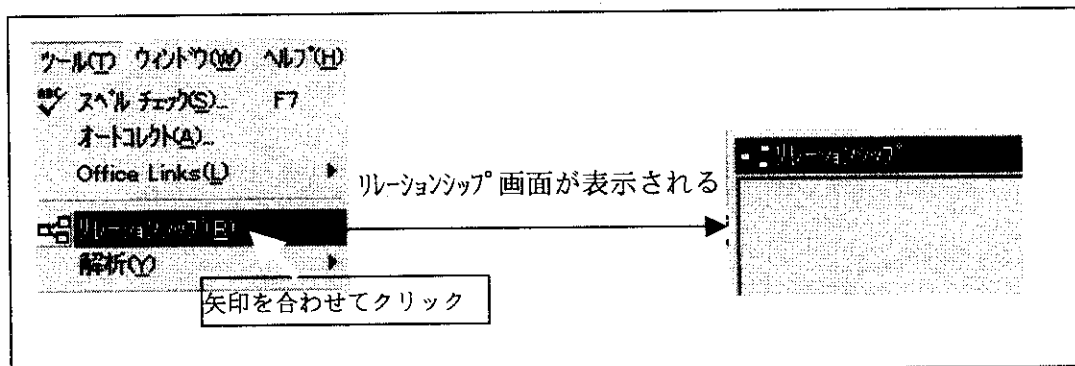
定義されているリレーション

①「T_年齢 Code」テーブルの「年齢区分」フィールド（主キー）と「T_単数回答」テーブルの「年齢区分」フィールド（外部キー）が関連づけています。

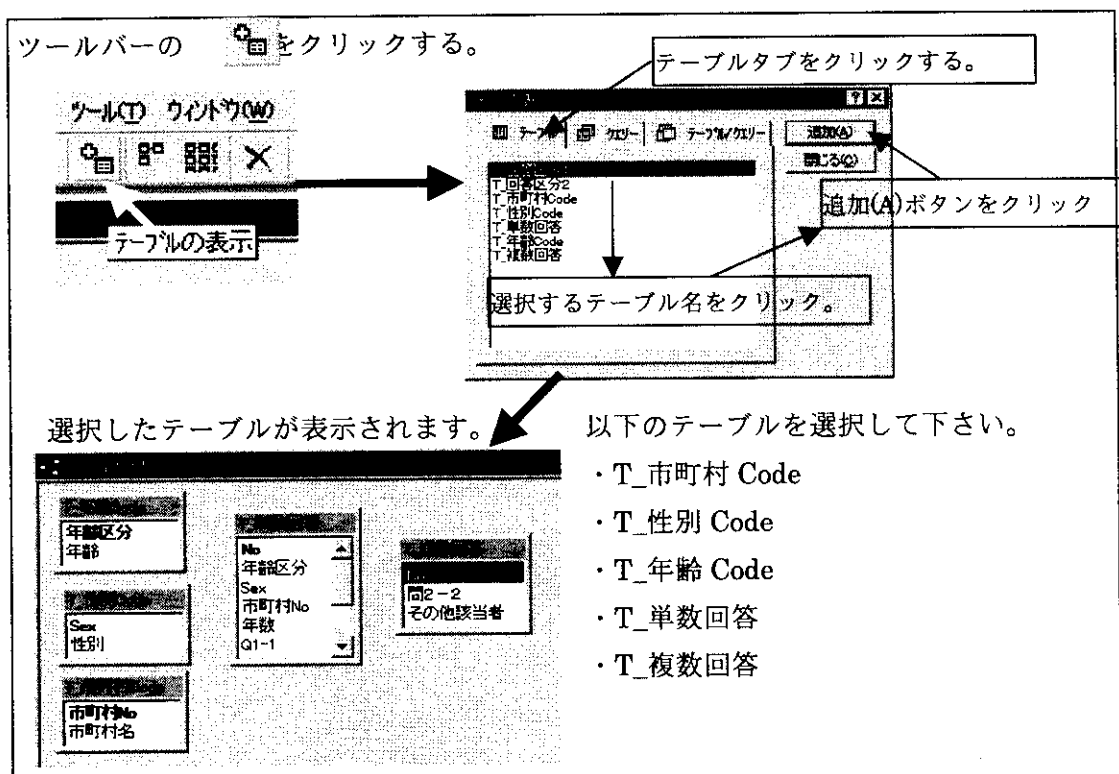
T_年齢 Code の年齢区分に登録されている値以外を T_単数回答の年齢区分に登録することはできません（参照整合性）

2) リレーションシップの作成手順

- ① メニューのツール (T) から「リレーションシップ (R)」を選択する。



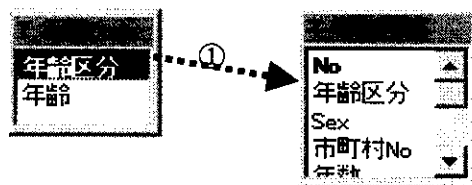
- ② リレーションシップを設定するテーブルを選択する。



メニューのリレーションシップ (R) - テーブルの表示 (T) からでもテーブルの選択は行えます。

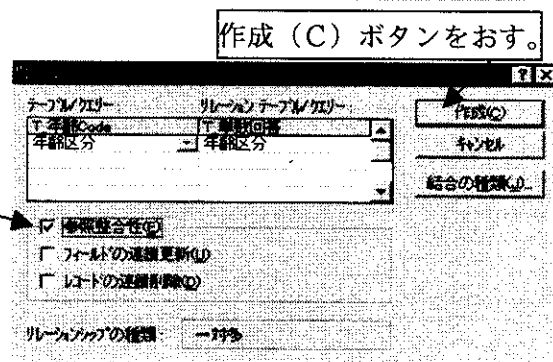
③テーブルのリレーションを定義する。(結合線を引く)

T_年齢Codeの年齢区分を左クリックして、マウスの左ボタンを押したままで、T_複数回答の年齢区分までマウスを移動します。(ドラッグする)

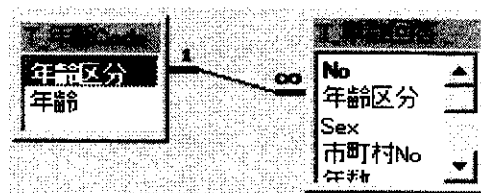


④ 次の画面が表示されるので、「参照整合性」のチェックボックスをオンにする。(参照整合性の設定)

ここをマウスでクリック



⑤テーブル「T_年齢 Code」と「T_単数回答」の年齢区分フィールドに一对多のリレーションが設定されました。(結合線が表示されます)



※参照整合性が設定されているので、テーブル「T_単数回答」の年齢区分フィールドには「T_年齢 Code」の年齢区分に登録されているコード（数字）以外は登録できません。また、「T_単数回答」の年齢区分使用されているコードは、「T_年齢 Code」側のテーブルでの「年齢区分」フィールドのコード（レコード）の削除および変更はできません。

練習2 T_性別 Code、T_市町村 Code、T_複数回答のそれぞれのテーブルと T_単数回答のテーブルの参照整合性のリレーションシップを設定して下さい。

T_複数回答と T_単数回答のリレーションには、「フィールドの連鎖更新」と「レコードの連鎖削除」も設定して下さい。

3 入力用フォームを作成する

フォームは、テーブルのデータをカード形式で入力できます。もちろん、テーブルのデータを直接テーブルに入力することもできますが、「データをまとめて処理をする」と、入力効率が上がり作業時間の短縮や省力化ができます。

入力用フォームを作成するときは、次の点を考えながら作成してください。

- ★わかりやすい（見やすい）画面であること。
- ★入力しやすい画面であること（エラー防止）
- ★データをまとめて処理できること（入力時間短縮）
- ★フォームの作成時間が作業短縮化できる時間を超えないこと。

（1）フォームのデザインを決定する

フォームは、テーブルやクエリーを基にしてフォーム作成ウィザード（WIZARD:魔法）を利用し、ウィザードの表示メッセージに応答していけば簡単にフォームは作成できます。

しかし、このフォームはあらかじめプログラムされたものなので自分なりに使い勝手がよいとは限りません、いわゆる既製品です。そこでリフォームをして自分にあった専用のものに作り変えましょう。

簡単にでも 「どんなデータを」 「どんな形で入力するのか」を考えながらフォームのデザインを決定します。

「どんなデータを」では、フォームの基になるデータを決定します。どのテーブルもしくはクエリーのデータを処理するのかを決定します。（レコードソース フォームのプロパティ（属性）設定で選択ができます。）

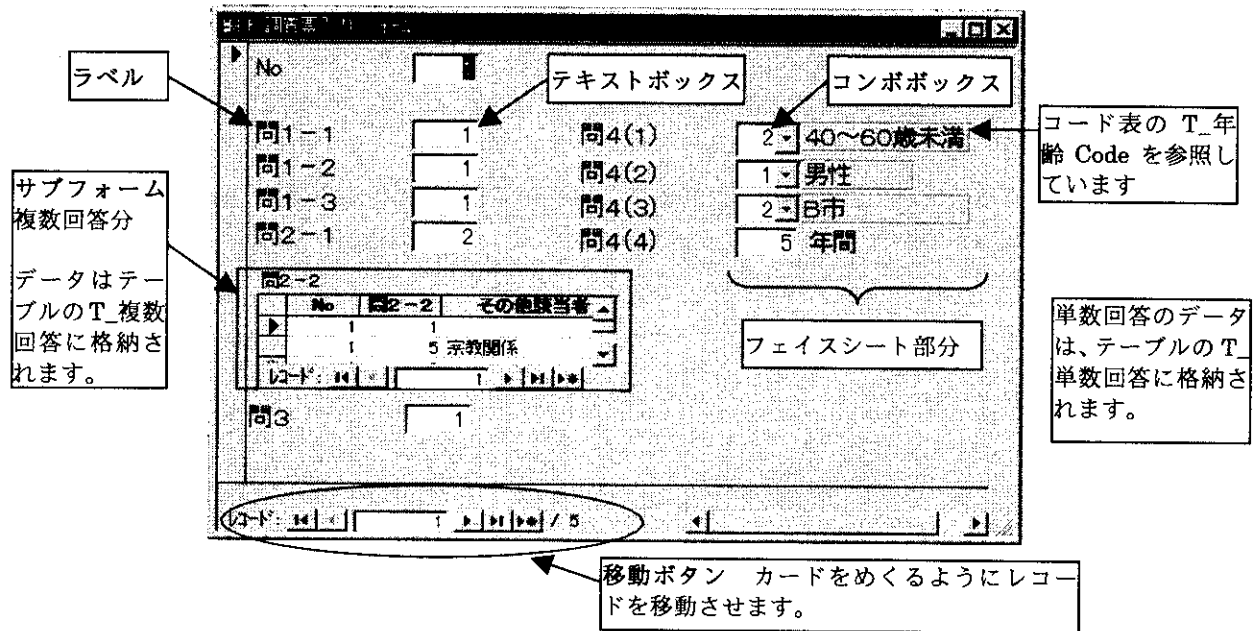
「どんな形で入力するのか」では、フォームの機能として用意されているテキストボックスやコンボボックスの文字のサイズや配置などを決定します。

（テキストボックスやコンボボックスは、テーブルのデータを格納するためにアクセスのフォームに用意されている機能です）

また、フォームは「単票形式（カード）」、「表形式」、「データシート形式（テーブルやクエリーでの表示形式と同様）」、「帳票形式」の4種類が用意されていますので用途によって使い分けて下さい。

このアンケート入力では、下のフォーム（単票形式）を作成します。

サブフォーム機能（データシート形式）も使用しています。（問2-2 複数回答部分）



用語説明

コントロール

フォームまたはレポートに追加されるものはすべて、コントロールといいます。テキストボックス、ラベル、リストボックス、オプションボタン、コマンドボタン、線などは、コントロールです。コントロールの作成方法は、連結コントロール、非連結コントロール、または演算コントロールのいずれを作成するかによって異なります。

連結コントロール…連結コントロール は、基になるテーブルまたはクエリーのフィールドに連結されています。連結コントロールは、データベースのフィールドの値の表示、入力、および更新を行うために使用します。

演算コントロール…データソースとして式を使用します。 式では、フォームやレポートの基になるテーブルまたはクエリーのフィールドからのデータ、またはフォームやレポートにある別のコントロールからのデータが使用されます。

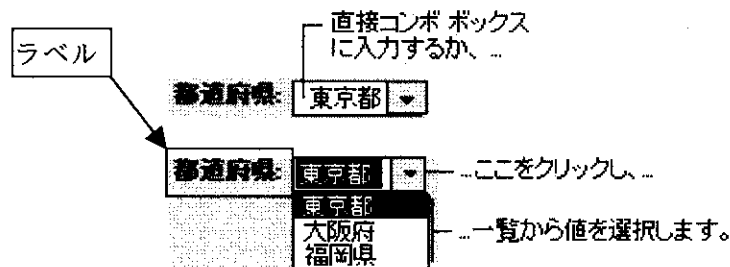
テキストボックス

フォームまたはレポートで、テーブル、クエリー、または SQL ステートメントのデータを表示するには、テキストボックスを使用します。このようなテキストボ

ックスは、フィールドのデータに連結されているため、連結テキスト ボックスとい
います。テキスト ボックスは、非連結にすることもできます。たとえば、演算の結果
を表示したり、またはユーザーからの入力を受け付ける場合に、非連結テキスト
ボックスを使用できます。非連結テキスト ボックスのデータは、どこにも保存され
ません。

コンボボックス

通常、値を思い出しながら入力するよりも、一覧から値を選択する方が、すばやく
簡単に値を入力することができます。コンボ ボックスを使用すれば、フォーム上の
わずかなスペースで、一覧から値を選択することも、値を直接入力することもでき
ます。コンボ ボックスには、テキスト ボックスとリスト ボックスを合わせた特徴
があります。



コンボ ボックスでテキストを入力したり、値を選択すると、コンボ ボックスが連
結されている場合は、入力または選択した値は、コンボ ボックスが連結されている
フィールドに挿入されます。

ラベル

フォームまたはレポートで、タイトル、標題、簡単な指示などの説明用のテキストを
表示するには、ラベルを使用します。ラベルは、フィールドまたは式の値を表示す
ることはできず、常に非連結コントロールであり、レコード間を移動しても変更さ
れません。

ラベルは、別のコントロールに付属させることができます。たとえば、テキスト ボ
ックスを作成すると、そのテキスト ボックスの標題を表示するラベルが付加されま
す。このラベルは、フォームのデータシート ビューで列見出しとして表示されます。

[ラベル] を使用してラベルを作成すると、ラベルは単独で作成され、別のコント
ロールに付属しません。フォームやレポートのタイトルなどの情報、またはその他
の説明用のテキストには、独立したラベルを使用します。独立したラベルを、デー
タシート ビューに表示することはできません。